魅力ある学級づくりのために

平成 23 年 3 月

群馬県教育委員会

① 小さな変化に敏感に！

落とし物や掲示物のはがれ、おしゃべり、出歩きなど、学習・生活集団の「小さな変化」を見逃さないようにしましょう。

「小さな変化」への対応の在り方が、混乱や深刻化を防ぐカギです。

魅力ある学級

自分の居場所があり、仲間と共に楽しく学習できる学級

出歩き・寝そべり等

↓

児童生徒間の暴言・暴力

↓

教師への暴言・暴力

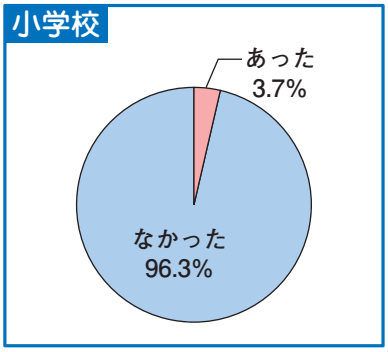
↓

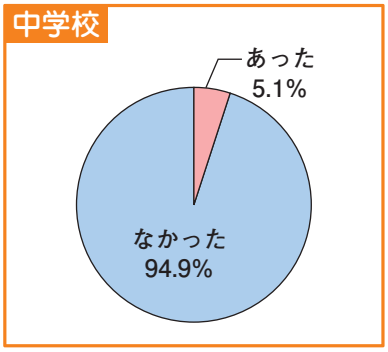
学級がうまく機能しない状況

小さなことでも見逃さず、その場で指導しています。（教諭）

教室に花を飾るなど、明るく清潔な環境づくりに配慮しています。また、学習成果や子どもたちのよさや思いをはり出すなどの掲示物の工夫をしています。（教諭）

「学級がうまく機能しない状況があった」と回答した教諭の割合

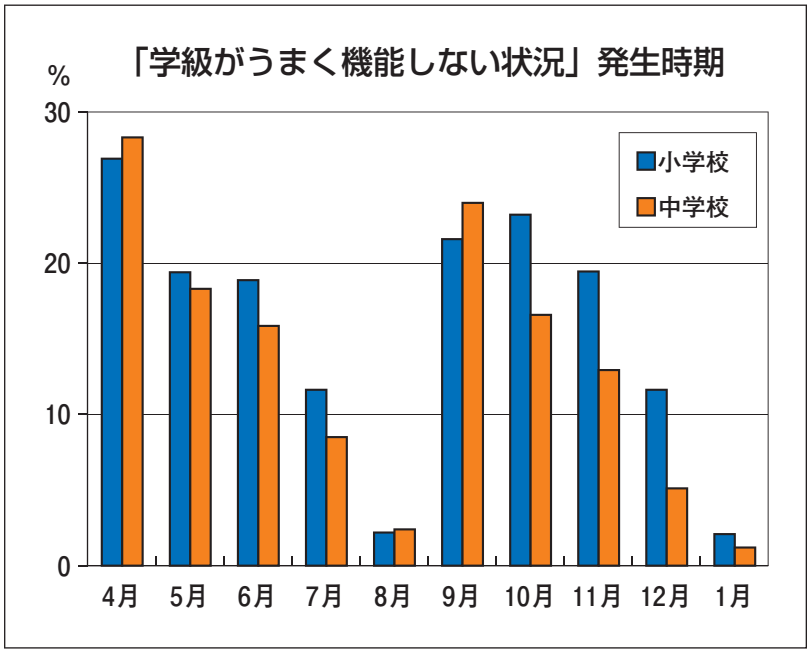




② 「年度始め」と「夏休み明け」に注意！

出会いの４月。子ども、担任ともに新しい学級に慣れていない状況です。一日も早く、子ども同士、担任と子どもたちが打ち解けられるように、人間関係づくりを工夫しましょう。

夏休み明けの９月。基本的生活習慣を見直し、年度当初の「学級目標」や「学級内のルール」の達成状況を子どもたち自身が見つめ直せる機会を設定しましょう。



人間関係づくりの工夫

４月

- 集会や朝学活などで自己紹介ゲーム等を取り入れましょう。
- 係活動や当番活動など、一人一人に学級内での役割をもたせましょう。
- 遊びなどで友だちの輪に入れない子どもへは、教師が仲立ちして、どんな言葉をかければよいか等の手本を具体的に示しましょう。

９月

- 運動会・体育祭などの学校行事を、学級・学年の集団づくりに活かしましょう。

あいさつ、チャイム着席など、「当たり前のこと」を確実にできるように指導しています。「ルールの習慣化」が大切です。（教諭）

教師がルールを押し付けるのではなく、子どもにルールの意味を考えさせたり、自分たちでルールをつくって守るような活動を取り入れたりしています。（教諭）

③ 要因は「子ども」「教師」「家庭」！

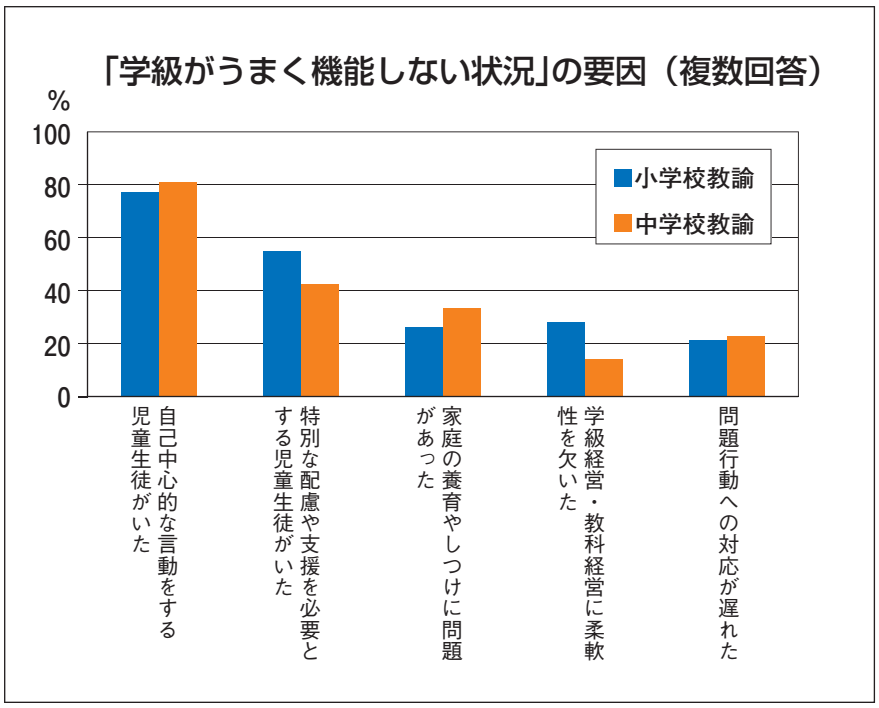
教師が感じた「学級がうまく機能しない状況」の要因は、大きく３つに分けられます。

○「子ども」……自己中心的な言動をする、特別な配慮や支援を必要とする

○「教　師」……学級経営・教科経営に柔軟性を欠いた、問題行動への対応が遅れた

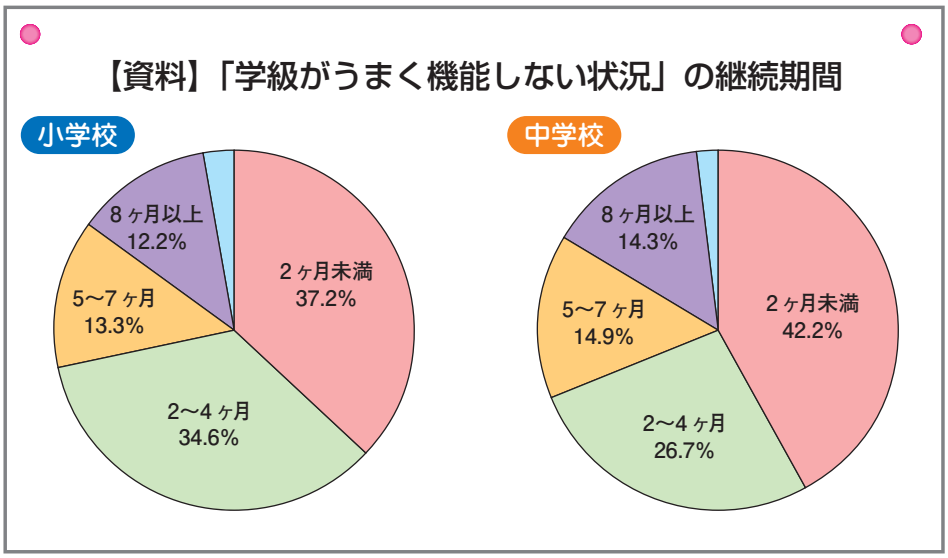
○「家　庭」……家庭の養育やしつけに問題があった

この３つの観点から、学級経営や教科経営を見直しましょう。



スクールカウンセラーと連携し、専門的な見方もふまえて子どもを理解するようにしています。（養護教諭）

「発達障害等、特別な支援が必要な児童生徒への理解と適切な対応の在り方」についての校内研修を行っています。（校長）



④ 授業中のきまりの徹底を！

授業の進め方は教師一人一人で違っても、「学習道具をきちんと用意して授業の始まりを待つ」、「発表する人の方を向いて話を聞く」などの授業中のきまりを、すべての教師で徹底させましょう。
また、生徒指導の機能を活かした授業づくりに全員で取り組みましょう。

「生徒指導の３つの機能を活かした授業づくり」を全教職員で

「自己存在感」を与える授業

・発言やがんばり、よさを多面的に認める。
・目立たない子どもの意見も取り上げる。

「自己決定」の場を与える授業

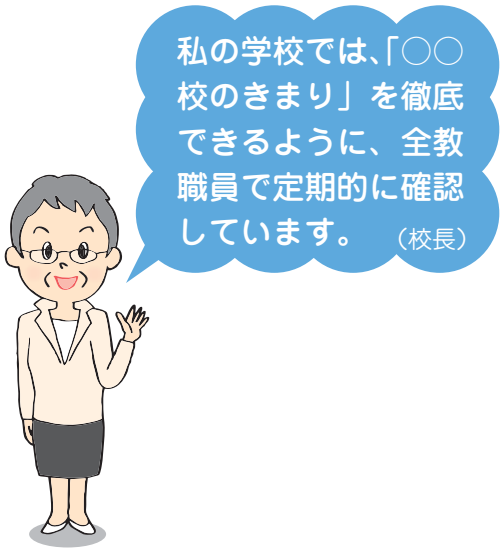
・自分で考えたり、活動したりする場を設定する。
・一つのことをやり切れる時間を保障する。

「共感的人間関係」を基盤とした授業

・温かい言葉がけをする。
・子どもたち同士で認め合える場を設定する。

【資料】「授業に支障を来す状況があった」と回答した教諭の割合

授業に支障を来す状況	小　学　校	中　学　校
出歩き・寝そべり等	19.0%	16.5%
児童生徒間の暴言・暴力	12.3%	10.9%
教師への暴言・暴力	5.3%	12.0%

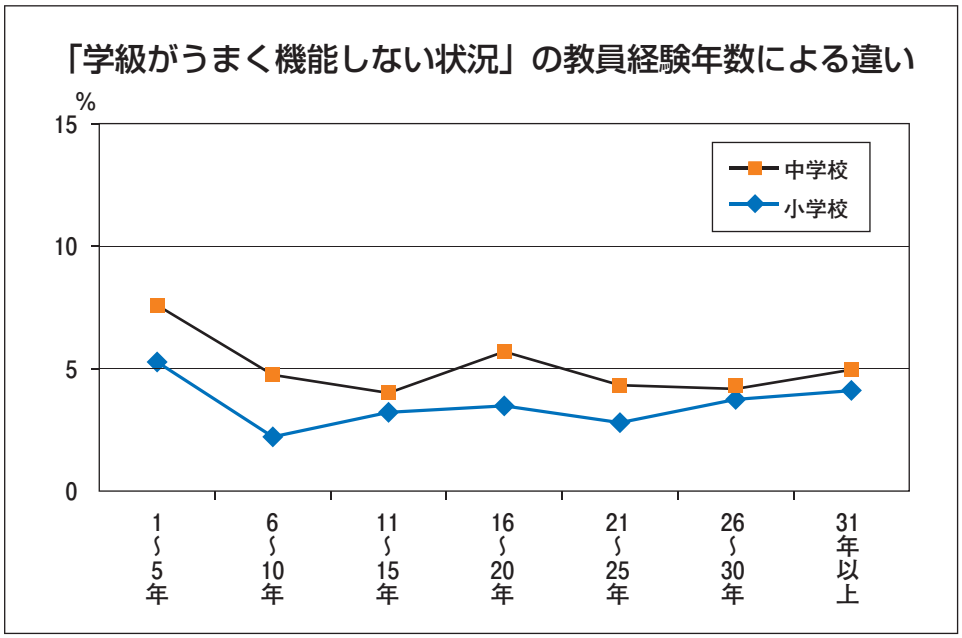


⑤ 一人の悩みは学年・学校の悩み！

教師であれば、学級経営や生徒指導・教科指導等についての疑問や悩みはあるものです。

「授業に支障を来す状況」を感じたら、一人で悩まずに、まわりの教師に相談しましょう。

他学級でも、「様子がちょっとおかしいな」と気付いたら、積極的に声をかけましょう。また、先輩が若い教師に積極的に声をかけて指導しましょう。



日頃から学級経営や学習指導などについて、教職員の悩みや相談に応じる雰囲気づくりをしています。担任が一人で抱え込んだり、精神的な負担を感じたりすることがないように配慮しています。（校長）

子どもだけではなく、職員も相談できるような保健室経営を心がけています。（養護教諭）

「学級がうまく機能しない状況」や「授業に支障を来す状況」は…

○学校規模
○学級規模
○学　　年
○教諭の性別

による大きな違いは見られない。

魅力ある学級づくりのためのチェックリスト　教諭用

「小さな変化」を見逃さないようにしましょう

子どもの様子

【授業中】

- □ 授業が始まっても、なかなか着席しない子どもがいる。
- □ 体を正面に向けて座ろうとしない子どもがいる。
- □ 授業への参加意欲が低下し、発言する子どもが一部に限定される。
- □ 仲間の失敗を笑ったりけなしたりするなど、まじめな行動を冷やかすような雰囲気がある。
- □ おしゃべりなどに対して、注意する子どもが少ない。

授業を止めて、その場で毅然と指導することも必要です。

【授業以外】

- □ 上履きのかかとを踏む子どもがいる。
- □ 係活動や当番活動を特定の子どもに押し付ける場面がある。
- □ 集会での集合に遅れたり、整列が乱れたりする。
- □ 机やロッカー等の整理整頓がなされずに、教室が散らかっている。
- □ 掲示物（子どもの作品、お知らせ）にいたずらがされる。
- □ 教室の備品などが使ったままになっていたり、すぐに壊れたりする。

教師の姿勢

- □ 学級の子どもと毎日笑顔で話をするなどして、人間関係づくりに努めている。
- □ ルールやマナーを守ることの大切さについては、言葉だけではなく、教師自らの言動で子どもたちに示している。（例「教師も始業のチャイムを教室で聞く」）
- □ 子どもたちの休み時間をしっかりと保障している。
- □ 話し方や指示の出し方を明確・簡潔にしている。
- □ 授業の展開が単調にならないようにしている。
- □ 学級の課題を解決するための方法を、子どもたち自身で考えられるようにしている。
- □ 一人一人が認められる場面を多く設定している。
- □ 子どもたちの努力の過程を具体的にほめている。

魅力ある学級づくりのためのチェックリスト　校長・教頭用

【学校組織としての対応】

□　学年・学級に問題が生じたときは、早期に実態を把握できる体制を築いている。

□　すべての学級の様子を自分の目で定期的に確認している。

【指導方法の向上】

□　教師が互いの授業を見合い、指導方法を学び合える機会を計画的に設定している。

□　特別な支援が必要な子どもたちの理解や適切な対応についての校内研修を実施している。

【家庭・地域との連携】

□　学校通信等で保護者に子どもたちの活動の様子を積極的に伝えている。

□　学校支援センターの機能を充実するなど、学校・家庭・地域社会が一体となった教育を推進している。

【市町村教育委員会との連携】

□　「学級がうまく機能しない状況」の予兆を察知したときは、すみやかに市町村教育委員会へ報告している。

「学級がうまく機能しない状況」に関する調査（平成23年１月実施）

本調査は、県内全公立小中学校を対象に、「学級がうまく機能しない状況」と「授業に支障を来す状況」を下記のように定義して行いました。

【学級がうまく機能しない状況】

「児童生徒が教室内で勝手な行動をして教師の指示に従わず、授業が成立しないなど、集団教育という学校の機能が成立しない学級の状況が一定期間継続し、学級担任・教科担当による通常の手法では問題解決ができない状況に立ち至っている場合」をいうものとする。

また、上記の解釈として以下のことを付記する。

（１）「一定期間継続」とは、おおむね２週間から３週間を超えて継続した場合をいう。

（２）「学級担任・教科担当による通常の手法では問題解決ができない状況」とは以下のことをいう。

①他の学級で通用する手法を用いても授業等が成立しない状況

②問題解決のために、複数教員による指導、他の教員による指導、担任の交替、臨時保護者会、臨時の公開授業等が実施された状況

【授業に支障を来す状況】

○「出歩き・寝そべり等」
児童生徒が勝手に出歩いたり、床等に寝そべったり、無断で教室を出て行ったりする。

○「児童生徒間の暴言・暴力」
児童生徒同士で暴言を吐き合う、暴力を振るい合う、物を投げ合う。

○「教師への暴言・暴力」
児童生徒が教師に対して暴言を吐く、暴力を振るう、物を投げる、無視する。

※本パンフレットは、上記調査結果に基づいて作成したものです。